

上田市教育委員会 7月定例会会議録

1 日 時

平成25年7月17日(水) 午後2時38分から午後4時31分まで

2 場 所

上田市教育委員会(やぐら下庁舎) 2階会議室

3 出席者

委 員

委 員 長	西田 不折
委員長職務代理者	城下 敦子
委 員	小市 正輝
委 員	山崎 順子
教 育 長	小山 壽一

説 明 員

武井教育次長、浪方教育参事、齋藤教育総務課長、倉島学校教育課長、浅野生涯学習課長、小山人権同和教育政策幹、土屋文化振興課長、佐藤スポーツ推進課長、水野丸子地域教育事務所長、柳沢真田地域教育事務所長、児玉武石地域教育事務所長、矢島丸子学校給食センター所長、石井上田情報ライブラリー館長、神林中央公民館長、樋口上野が丘公民館長、倉澤博物館長

1 あいさつ

2 協議事項

(1) 上田市教育行政に係る事務の点検及び評価について(教育総務課)

資料1により齋藤教育総務課長説明

西田委員長

C評価としている事業について、B評価若しくはA評価となるためには何をしたらよいかということが、ひとつの考えるステップになる。

「学校給食に関する基本的な計画の策定」の総合評価はCであるが、委員からの意見として「課題となっている事項について検討を重ね、基本的な計画が策定されることを期待します」とあるのは、自校方式とセンター方式を統一するという意味か。

齋藤教育総務課長

必ずしも統一ということではない。教育委員会がもらった答申の内容は、自校方式が望ましいとしているが、現在ある施設は有効に利用し、財政的に困難な場合には別の方法もあるというものである。それらを総合して、上田市としてどういう方向にしたら良いのかということであるが、なかなかまとめがたい状況である。

西田委員長

これまでの長い経過の中では、センター方式にも自校方式にもそれぞれの主張があり、それぞれに良い面がある。そういうことを前提に、当初目標の掲げ方を少し変えたらどうか。自校方式にするかセンター方式にするか、どちらかにするということは無理である。

両方式は設備的な手段であり、子どもたちへの食育とともに衛生面や健康面に寄与できる給食を提供するということが最終目標である。懇話会では、目標の設定としても基本的な計画を策定することを期待しているということか。

齋藤教育総務課長

懇話会では、目標の設定の仕方そのものについては触れていない。

小市委員

課題はたくさんあると思われるが以前の評価も同じような内容であり、このところ何回か受けた報告でも状況は変わっていない。年次的な計画を立て、この段階ではどういう課題がありどんな手立てでどこまで踏み込めるのかということ、見直しをもって取り組まないといつまでたってもC評価である。

齋藤教育総務課長

それぞれ御意見を参考に組みたい。

小市委員

「学ぶ意欲を育む授業づくり」について、これまでずっとB評価である。現在、中学校から小学校に行っている教員4人の数をもっと増やせばA評価になるかもしれないが、学校そ

のものが努力することによってできることもたくさんあると思われる。

例えば、夏休みの始まりと終わりを1日ずつずらして、小学校が早く夏休みに入ったら小学校の職員は中学校にいて授業をするということもできる。小学校に行って何を勉強してくるか、中学校に行って何をしようかという意識が必要ではないか。

地域の子どもたちを地域にいる自分たちが育てるのは教職員も同じである。地域住民や保護者と一緒に育てるのだが、学校の教職員としてどういう意識を持っているか。

また、小学校でどう育ち中学校に来てどう成長しているかを見る必要がある。そのことが足りないと子どもたちの中には対応が難しい場合もあり、それぞれの学校が工夫しないとかなかなかA評価にはならないのではないか。

浪方参事

これまでの取組が本当に実効性のある結果につながっているのか、必ずしもそうではないのではないかとということもあり、現在、学力テストのひとつであるNRTを実施している。

また、校長や研究主任の先生と取り組む中で話題になるのが、職員には勤める学校の地域の子どもたちを小中一緒に見るという意識が必要であり、それにはどうしたら踏み出せるかということである。これをさらに具体化するには、学校長のリーダーシップが必要であり、学校長には来年度に向かって本年度の取組を検証してもらっているところである。

城下委員

子どもたちにとって「授業がわかる」イコール「勉強が楽しい」というところにもっていくことは大事なことであり、小中連携をもっと拡大していけたらと思う。

教職員は忙しい中で動いてくれるが、小中連携に当たる教職員をサポートすることも必要である。しわ寄せで子どもたちが置き去りにされるようなことにならないように、しっかりサポートして事業の拡大につなげたい。

また、先日、市内の学校の授業参観のことが新聞の投書欄にあり、ずいぶんひどい授業であるとの内容だった。まだまだこうした取組の恩恵を受けていない子どもたちがたくさんいると思われるので是非成果を上げていってほしい。

山崎委員

教員が実際に困っていることは何かということ把握できれば、困ったことに対して具体的にどういった手立てがあるのか見出せるのではないか。講演会などでは大きなところの話をするが、実際の自分の学校やクラスでどうすればいいのかということにつながらない。研修などでは、教員の実際の話聞いて、明日からすぐに活かせる手立てとして具体的な方法がわかれば、その教員の支援になるのではないか。

小市委員

他の都道府県では、近くの小中学校であっても他校の先生のことは全く知らないという状況であり、それぞれの学校はそれぞれの学校の教育だけをするという話を聞いたが、長野県では、小中学校でつくられた小さな支会がたくさんあり、どこの学校にどんな先生がいるのかがある程度わかっているため、意欲さえ高まってくれば実効性のある組織となり得るのではないか。

こうした今まで培ってきた財産を有効に活用できれば、上田市の子どもたちの教育の向上につながると思われるので期待したい。

城下委員

1 - 「地域に信頼され地域に開かれた学校づくり」と4 - 「地域が学校を支援する事業」のふたつであるが、オーバーラップしている部分がある。一方の事業では、地域の人材に関する情報を収集するとあり、もう一方の事業では同じように学校支援に意欲を持っている地域の人材を発掘しボランティアの育成を図るとある。また、キャリア教育に関しても両方に記載されている。

どちらかが主としてやっているのか、それとも互いに横並びでやっているのか。

倉島学校教育課長

まず、事業の選択方法だが、毎年部局ごとに重点目標を決めており、教育委員会ではそれぞれの課が選んでいる。

学校教育課としては地域に開かれた学校づくりを進めるということで、単発事業のほか学校支援地域本部事業、コミュニティスクール、ボランティア活動も含めて全体的に進めていくという視点から事業を設定している。一方、生涯学習課においては、サポートする側として実質的に市民と間に入って学校を支援していくという観点から事業を進めている。

大きく見ると同じようなことになるが、それぞれの課の観点から目標を立て事業に取り組んでいる。

城下委員

両方の課がそのことに対して話し合うことはあるのか。

浅野生涯学習課長

学校教育に取り組む学校教育課では開かれた学校づくりという表現になり、一方の社会教育分野は学校内で行われる教育以外のものすべてに取り組む教育であるので、地域に軸足を置いた施策になる。立ち位置は異なるが双方が融合してひとつの形になることを目指しており、双方が連携して進めるということが基本的なスタンスである。

西田委員長

生涯学習課が指導者を養成するとは、具体的にどのようにやっているのか。

浅野生涯学習課長

組織的には、9つある公民館が地域と学校との連携を進めるコーディネーター役ということで進めている。具体的には、各公民館に2名から3名の社会教育指導員が配置されており、中には教員OBも多いわけだが、その社会教育指導員にコーディネーター役を担ってもらうということで進めている。また、現在は、生涯学習課に塩田中学校での実践の実績がある青少年育成指導員を配置しており、各公民館の社会教育指導員にアドバイスをするという体制を取っている。

小市委員

4 - 「地域に信頼され、地域に開かれた学校づくり」の委員からの意見の中に、教育委員が自由に学校に行くことができる体制づくりを進めていく必要があるとあるが、教育委員としては学校の第一の支援者でありたいし、困ったことがあれば一緒に考えていくことが基本的なスタイルだと思っている。また、そういうことを懇談する機会をつくってほしい。教育委員は上意下達でものを申し立てているのではないということを是非理解してもらいたい。

西田委員長

教育委員会については、報道等がすべてのように理解されてしまっていてマイナス面が共通化されている部分がある。上田市には上田市のいいところうまくいっているところがあり、それをアピールする必要がある。それは、学校現場や担当部署の自信につながることであると思う。

次に、そのほかのC評価2件については、どう考えているか。

浅野生涯学習課長

生涯学習情報の一元化については、現在、庁内で進めている情報プラザ構想等による全庁的な情報発信方法の見直しがあり、それと歩調を合わせて進めていくことになる。一分野である生涯学習情報だけのシステム開発は、独自ではなかなか進められない状況となった。

佐藤スポーツ推進課長

スポーツ施設整備事業の総合評価がCとなった一番の理由は、スポーツ施設使用料金の統一という目標を掲げて取り組んできたが、市長部局との調整の中で全市的な施設使用料の改定に合わせる事が望ましいということになり、すぐには統一しないという状況になったためである。今後は、全市的な料金見直しに合わせて使用料の統一を行うことに目標を変更し、評価もBとなるように準備を進めていきたい。

西田委員長

全市的という意味は、合併前の丸子、真田、武石とのバランスを含めたということか。

佐藤スポーツ推進課長

スポーツ推進課が進めていたのはスポーツ施設の使用料の統一ということであったが、市の施設としてはスポーツ施設以外にも使用料設定のある施設がいくつかあり、それらも含めて、また、消費税の税率改定にも対応する中で、全市的な公的施設の使用料を改定したいということである。

西田委員長

具体的な目標設定の仕方を含めて、C評価をB評価に上げる努力を一緒にしていきたい。

全委員 了承

(2) 上田市図書館管理規則の改正について(上田情報ライブラリー)

資料2により石井上田情報ライブラリー館長説明

山崎委員

DVDの蔵書がふえ、借りる側としては楽しみが増したのではないかと。現在は情報ライブラリーのみが貸出をしているが、今後、市内のほかの図書館についての予定はあるか。

図書館では、本がずいぶん損傷しているという話を聞くが、貸し出したDVDの損傷はどうか。また、今後の対応について何かあれば聞かせてほしい。

石井上田情報ライブラリー館長

視聴覚資料の提供について、他館の検討状況までは承知していない。

DVDの状況については、確かに傷等が見つかることがある。その場合は、表面を研磨して雑音を取ることが数回は可能であるため、そうした操作をする。事故により破損した場合は弁償してもらうことになるが、上田市がロケ地の映画作品などは既に現物が販売されていなかったり、また、図書館で貸し出しているDVDは通常の市販DVDの数倍の値段であることが多く高額であったりと、対応が困難なこともある。いずれにしても大事に使ってもらうということで貸出している。

全委員 了承

(3) 上田市スポーツ推進審議会委員について(スポーツ推進課)

資料3により佐藤スポーツ推進課長説明

全委員 了承

3 報告事項

(1) 学校教育関係寄附の状況(学校教育課)

資料4により倉島学校教育課長説明

西田委員長

昨年に引き続いてとのことだが、こうした寄附は広報などに載せるのか。

倉島学校教育課長

この件については、公表は一切困るということで氏名も事実も載せていない。また、子どもたちに対しても、寄附をもらったことは知らせるが誰からかということには知らせていない。

西田委員長

寄付に関して、匿名でもかまわないが寄附があった事実をPRすることで、ほかにも寄附する人が出てくるとありがたい。奨学金なども、広い範囲で篤志家が現れ、資金協力が得られるとよい。そのためには、やはりPRが必要である。

全委員 了承

(2) 平成25年度出前ときめきのまち講座について(生涯学習課)

資料5により浅野生涯学習課長説明

西田委員長

教育委員会が関わる講座はどのくらいあるか。

浅野生涯学習課長

11講座である。

城下委員

昨年の実績はどうか。

浅野生涯学習課長

教育委員会の講座ではないが、一番人気はマルチメディア情報センターの「子どもと携帯」というテーマであった。教育委員会関係では、生涯学習課の「親子関係のあり方を考える」と、学校教育課の「学校給食と子どもの食生活」の講座がそれぞれ2回の利用であった。さらに、「子どもの人権意識を育てましょう」や「地域のいいところ探し」などの生涯学習課関係の利用があったことと、そのほか文化振興課関係で5回ほど利用されている。

西田委員長

それぞれの専門性と市民のニーズをいかにマッチングさせるかという課題もあるが、我々教育委員会も含め、市民の前に出て行き市民に理解してもらおうということが大事ではないかと思っている。教育委員会のテリトリーは非常に広く担当には苦労もあると思うが、特に市民の前に出て行くということを大切にしてもらいたい。

全委員 了承

(3) 平成25年度夏休み上野が丘わいわい塾の実施について(上野が丘公民館)

資料6により樋口上野が丘公民館長説明

西田委員長

怪我や事故がないようにしなければならないが、怪我や事故をおそれるあまり萎縮することなく豊かな活動を続けてほしい。子どもたちの班分けは、学年別、年齢別であるか。

樋口上野が丘公民館長

1年生から6年生までの縦割りの異学年で構成された班である。

山崎委員

昨年の保護者アンケートには、非常に素晴らしい取り組みで是非続けてもらいたいという意見がある一方、抽選もれについての意見もあった。今年度はどうか。

樋口上野が丘公民館長

昨年度は70名ほどの応募があり、最終的には抽選を行った。今年度は、ボランティアに多く参加してもらえらることと指導できるスペースが全館的に確保できたことから、応募者全員が参加できる。来年度についても同様に検討したい。

全委員 了承

(4) マラソン大会・駅伝大会の開催について(スポーツ推進課)

資料7により佐藤スポーツ推進課長・児玉武石教育事務所所長説明

山崎委員

AED等の安全対策はどうか。

佐藤スポーツ推進課長

昨年は、スタート地点である県営球場にAEDが備え付けてあるほか、携帯できるAEDを用意して万一の場合に備えた。今年は、スポーツ推進課にAEDが1台ふえたため、更に必要なところに配置できる。

城下委員

参加者が年々ふえているが、定員はあるのか。

佐藤スポーツ推進課長

今のところ定員はない。昨年も前年に比べて200～300人増えて2500人程度であった。今年の参加者の状況を見てからになるが、あまり急激にふえると駐車場などの問題が発生するため、今後については検討したい。

全委員 了承

(5) スポーツ関係市長表敬訪問者報告(スポーツ推進課)

資料8により佐藤スポーツ推進課長説明

全委員 了承

(6) 平成25年度ブルームフィールド市郡中学生派遣交流事業について(丸子地域教育事務所)

資料8-1により水野丸子地域教育事務所所長説明

全委員 了承

(7) 行事共催等申請状況について(学校教育課・生涯学習課・文化振興課・スポーツ推進課)

資料9- により倉島学校教育課長説明

全委員 了承

資料9- により浅野生涯学習課長説明

全委員 了承

資料9- により土屋文化振興課長説明

全委員 了承

資料9- により佐藤スポーツ推進課長説明

全委員 了承

4 その他

神林中央公民館長より公民館だよりの説明

全委員 了承

閉会